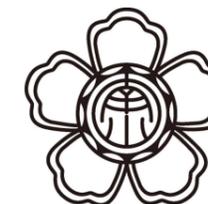


## 学校評価報告書



### 教育目標

自ら学び、共に生きる心豊かな子どもを育成する

●み(知) …みんなで学ぶ子

①学力向上 ②言語力向上 ③指導力向上(表現力)

●な(徳) …なかよくする子

④規範意識の育成 ⑤あいさつ運動 ⑥異学年交流(特別活動)

●み(体) …みんな元気だ

⑦体力向上 ⑧健康 ⑨食育

みなみっ子



園田南小学校では学校評価を通じて学校教育の改善と、児童・保護者・地域のニーズに応える学校づくりを目指します。

校長 佐藤 喜代子

尼崎市立園田南小学校  
〒661-0974  
尼崎市若王寺1丁目1番1号  
TEL : (06)6493-6821  
FAX : (06)6493-6822

### 総合評価とまとめ 【総合評価：3.3】

学校目標「自ら学び共に生きる心豊かな子どもを育成する」を具現化した「めざす子ども像」により、「㊦(知育) みんなで学ぶ子」「㊦(徳育) なかよくする子」「㊦(体育) みんな元気だ」「㊦(心) りっ子」と子ども達と教職員が目標に向けた取り組みを続けています。今年度の評価は、上がっている項目もありますが、㊦(徳育)の評価が下がる傾向にあります。

「知育」面では、全国学力・学習状況調査で、国語・算数ともにどの領域も全国平均を上回るか同程度という結果となりました。研究で取り組んでいる「話す・聞く」領域において成果がでています。今年度も記述の工夫等に課題が見られ、複数の資料や情報から必要なものを取り上げて論理的に整理して表現できる力の向上に向けて、活字に触れる経験を増やし、積極的に書く習慣を様々な学習を通して行うことが必要といえます。算数では、基本的な力は定着しているものの、それらを活用する力やあきらめずに取り組む力を育成する必要があります。

決められたことを真面目に取り組む姿勢がある反面、自分から自主的、計画的に取り組む学習や読書の時間はまだ少ないことから、自主学习等を更に充実させて「学びに向かう力」を育成していきたいと考えます。自主学习では、参考になるものを教室や学びの広場に掲示して意識付けさせるとともに、教職員に共通理解する機会をもつことで系統立てた自主学习へと進化させています。また、今年度から朝の帯学習を「みなみっ子タイム」として20分間を確保し、朝読書に加えて、基礎学力の定着をめざした計算や漢字学習等、内容を充実させています。学年によっては、伝える力の向上のため、音読やスピーチを継続しています。放課後学習では全学年対象に算数を中心に取り組み、持続した学力向上につなげているところです。併せて、今年度刷新した「家庭学習の手引き」を活用し、家庭での支援をお願いするよう発信しています。これらのきめ細かな積み重ねにより、市が昨年度から実施している「あまっ子ステップアップ調査」において、全学年で基礎学力向上の成果が見られます。

言語力に関しては、読み聞かせ、図書ボランティアの方々の協力もあり、図書室の活用が定着しています。今後も語彙力を伸ばし、「対話的な学び」を中心に考える力をつけ、「深い学び」につながるように充実を図り、継続した取り組みを続けて参ります。

「徳育」面では、地区全体で「あいさつ運動」を展開し、心豊かな人間関係を築ける子どもの育成を目指し、生活安全委員会を中心に取り組んでいます。引き続き、自分から挨拶のできる子どもたちを増やす手立てを講じたいと考えます。また「特別の教科 道徳」を軸に計画的に授業づくりや評価の研究を行い、特別活動では異学年交流を通じた思いやりや親切心の醸成など学校全体で心の教育の充実を図っています。あわせて、規律の徹底をめざし、教職員の共通理解を図ります。

「体育」面では、工事中は場所の使い方を工夫して、休み時間や体育の時間、体育的行事を通して積極的に体づくりを推進してきました。ペア学級で取り組む楽しい体づくりも効果をあげています。また、意欲的に授業研究を行い、日々自ら楽しむ体力向上をめざしてきました。加えて、子ども達が自分で体を守る習慣づくりを徹底することや発達段階に応じた食育に力を入れることで、健康的でバランスのとれた体づくりに努めています。今後も引き続き、外部人材を積極的に活用した効果的な方策を進めていきます。

保護者アンケートでは、昨年度同様の傾向がありますが、学校行事への参加が上昇しています。「学習したことが分かっている」「ふさわしい言葉遣い」「懇談会への参加」には、まだ改善が必要といえます。それ以外の項目では肯定的な評価が多いことから、さらなる改善に向けた方策やまめな情報発信の必要性を感じています。また、PTAと力を合わせて、行事の工夫や安全対策、地域との連携を強化することなど、いろいろなご意見を参考にしていきたいと考えます。

今後とも、さまざまな課題解決に知恵を出し合って組織的に取り組み、安心して信頼のできる開かれた学校をめざし、家庭や地域の皆様の理解と協力を得ながら教育の向上に努めて参ります。

### 評価基準

各項目の点数は教職員が、以下の基準で取り組みを評価しました。

- 5 満足いく取り組みができた
- 4 概ね満足いく取り組みができた
- 3 取り組みができた
- 2 まだ取り組みに課題が残る
- 1 取り組みに課題が多い

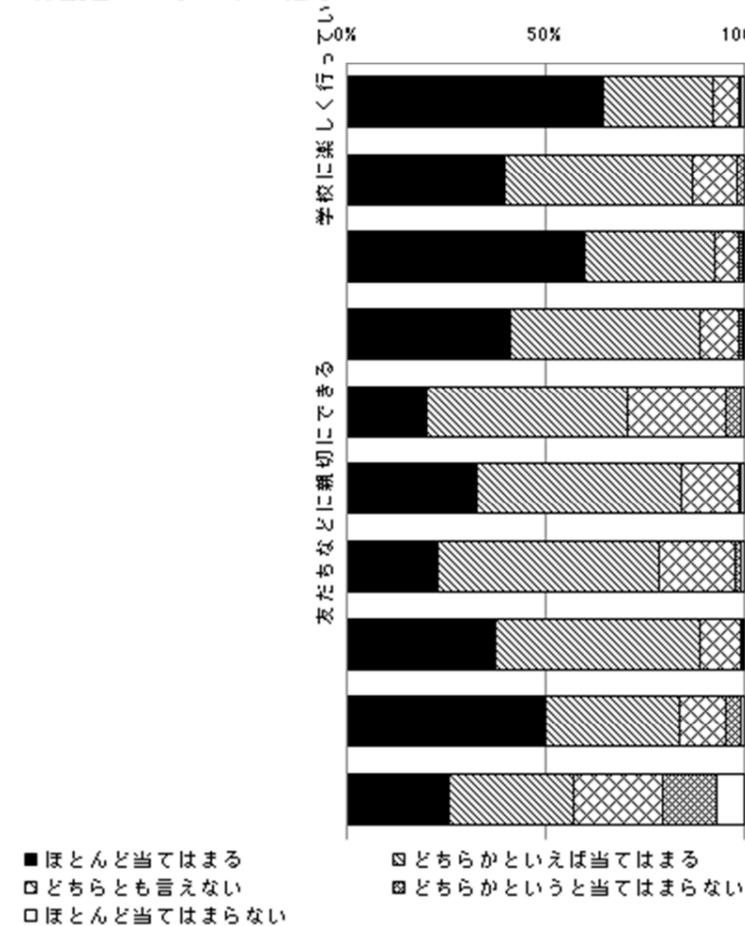
**学校評価の目的 (文部科学省)**

① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。

② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 保護者アンケートの結果



## 各取り組みの内容と評価

### み(知)：みんなで学ぶ子

#### ① 学力向上【評価：3.6】

今年度は、新たに朝学習「みなみっこタイム」を開始しました。基礎基本の定着を目指し、全学年が朝の20分間、集中して読書や漢字練習、計算問題などに取り組んでいます。放課後学習も全学年対象となりました。また、興味関心のある内容を主体的に追求して学ぶ「自主学習」には継続的に取り組み、学年を越えて交流（みなみっこ学びの広場）することで、自らの学びをふり返り、学校で学んだことを活かしながら主体的に学ぼうとする力が付いてきています。全国学力調査における実態調査で「自分で計画を立てて学習をしている」「授業で学んだことを、ほかの学習に活かしている」と答える児童の割合も少しずつ増えてきました。

子どもたちの学力向上には、ご家庭や地域の協力が必要です。各家庭に配布している「学びの手引き」も一新され、具体的な学び方やモデルが示されています。今後もより一層、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに働きかけ、基礎基本の定着はもちろんのこと、何事も主体的に追求し学びを深められる力を育てていきたいと考えています。

#### ② 言語力向上【評価：3.3】

今年度の本の貸出冊数（4月～12月）は34527冊と昨年度よりも約30%増え、たくさんの児童が読書に親しまいました。たくさん本を読んだ児童の名前を掲示する「読書の山」の取り組みでは、1・2年生は80冊以上、3～6年生は8000ページ以上を目指し、挑戦しました。そんな南小の児童にさらに様々な本と出会ってもらうため、児童のリクエストも取り入れながら教職員と言語力向上職員で連携して本を選択しました。また、図書ボランティア「ぶっくママ」さんには本の装備やしおり作り等をはじめ、図書室の環境を整えていただきました。お話ボランティア「ベガサス」さんには月1回の図書室での読み聞かせや読書週間の各教室でのお話会をしていただき、普段目にはできない大型紙芝居やストーリーテリングを楽しむこともできました。「図書室に大勢の人に来てもらえるような面白い企画をする」と目標を立てた図書委員会では、読書週間の朗読や読書クイズ、本3冊貸出券の配布、また低学年への読み聞かせや本の紹介ポップ作り等、児童が主体的に活動しました。朝読書や読書記録への継続した取り組みにより、読書の習慣が身につけてきています。来年度も児童が本に触れられる機会を多くつくっていかうと思います。

#### ③ 指導力向上（表現力）【評価：3.4】

表現力をつけるためには、まず自分の考えを持つことが必要不可欠です。子どもたちに、まず自分の考えを持たせるために、書く活動を効果的に授業に取り入れる工夫をしてきました。文章を書くだけでなく、図を用いたり表にまとめたり、教科書にサイドラインを引いたりといった、様々な書く活動を効果的に取り入れました。その結果、書くことへの抵抗感がなくし、書くことによって自分の考えを整理したりまとめたりできる子が増えてきました。そうして培った自分の考えを、今度は友達と伝え合います。伝え合う中で、質問をしたり、友達から意見をもらったりして、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになりました。日々の基礎的な学習を大切に、子どもたちの表現力が向上するよう、これからも指導を続けていきます。

### な(徳)：なかよくする子

#### ④ 規範意識の育成【評価：2.8】

昨年に引き続き、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養い、よりよく生きるための指導を道徳の時間を中心に行ってきました。

昨年度から「特別の教科 道徳」として、教科書を使用して授業を行っています。どの学年も道徳ファイルを作成し、授業ごとの振り返りを綴っています。子ども達が学んだことや考えたことをファイルに綴っていくことで、子ども達の心情の変化や成長が目に見えて感じられました。さらに授業で学んだことが子ども達の生活に結びついている場面も見られ、これから生きていくための道徳的な実践力が身につけてきました。

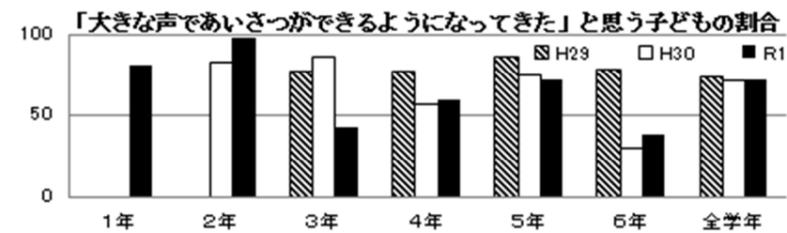
また、1学期に行われたオープンスクールでは、各学年が同じ資料を使用して、『親切・思いやり』『友情・信頼』について考える道徳の授業を行いました。友情や親切などに関して、日頃の自分を振り返り、改めて考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

来年度は、特別活動やあいさつ運動などとも連携を図りながら、児童の更なる内面的資質の向上を目指したいと思います。

#### ⑤ あいさつ運動【評価：2.8】

あいさつは社会生活を送る上で欠かせないものです。今年度も、道徳の授業を通じてあいさつの大切さを考えさせたり、朝のあいさつ運動に取り組んだりしてきました。また、自分の生活を振り返り、あいさつを意識させることをねらって、「あいさつアンケート」を実施しました。その結果、全学年で「大きな声であいさつができるようになってきた」と思う子どもの割合は、7割から8割と高い水準となっています。しかし、学年間で割合の差が大きく、学年が上がるごとに減少傾向にあると言えます。そこで、あいさつビデオを放映し、職員も一体としたあいさつを啓発しました。今後も人間関係の基本となるあいさつが習慣づけられるよう、継続して指導していきたいと思ひます。

※【グラフの見方例】6年生であれば、斜線が4年生時の結果、白が5年生時の結果、黒が6年生時の結果を表しています。



#### ⑥ 異学年交流（特別活動）【評価：3.3】

同じ学年の集団ばかりでなく、異なる学年の集団とも仲良く関われるように、1・6年生、2・5年生、3・4年生で異学年同士のペアを作り、様々な活動を行ってきました。南小祭りでは、お店の準備や店番をペア学級で協力して行い、ペアの児童とお店を回ることで、ペアの仲もさらに深まりました。また、年二回のなかよし給食以外にも、休み時間を使って児童会企画のペア遊びやみなみっ子なわとびあそびを実施したことで、話す機会が増え、仲良く活動できていました。さらに、体育大会の応援合戦の練習や、朝のあいさつ運動では、高学年は低学年の見本になろうとがんばり、低学年は高学年の姿を見て学んでいる様子が見られました。このように、どの学年でも、異学年のペアで交流したときは仲良く活動できています。しかし、交流活動がない期間の関わりは、少なかつたようです。交流の機会を多く設けることで関わりも深まり、さらに、高学年としての自覚や思いやり、低学年の高学年に対するあこがれの気持ちなどが芽生えると考えます。来年度も引き続き、ペアや異学年で交流する機会を定期的に設け、積極的に関わりを深められるよう指導していきたいと思ひます。

### み(体)：みんな元気だ みなみっ子

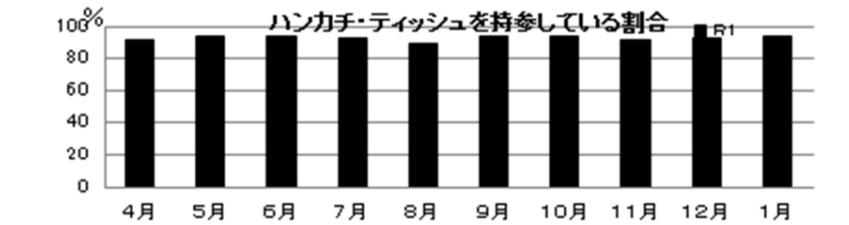
#### ⑦ 体力向上【評価：3.4】

今年度も「子どもたちが運動を楽しみ、生涯にわたって運動に親しむことができる素地を育てるとともに、健康的な体作りと体力の向上を目指す」という目標のもと、授業改善や体育的行事に取り組んでいきました。体育部の教員を中心に研修に参加し、子どもたちが運動の楽しさに触れることができるように、体育の授業改善をしていきました。また、ワークシートを使用し思考力や表現力を高め、考えながら運動の楽しさを追求する体育学習に取り組んできました。あわせて、3学期の寒くなる時期には、休み時間に「みなみっ子なわとびあそび」としてペア学級で大縄と短縄遊びに取り組みました。その結果、寒い時期でも子どもたちが学年・性別に関係なく運動場で縄跳び遊びをして楽しむ姿が多くなりました。今年度から遊び場所を確保するため休み時間に体育館を開放し、様々な遊びに触れる機会を増やしています。これからも運動を楽しみながら体力を向上させることができるようにしていきたいと思ひます。

#### ⑧ 健康【評価：3.3】

今年度も、子ども達が自分で体を守ることができる習慣づくりを指導してきました。石鹸で手を洗い、ハンカチで拭くことやうがいや習慣化することに継続して取り組みました。各クラスでハンカチ・ティッシュ調べを実施するとともに、発育測定時に手を清潔に保つよう注意喚起を行っています。保健集会では、食事を三食取る、睡眠をしっかり取る、ゲームや携帯の時間を決めて使うなど生活習慣を見つめ直し、健康に過ごす為の提案を行いました。また各家庭に向けて保健だよりを発行しています。

欠席者数は、インフルエンザが12月、1月に増加傾向にあり、空気の入替えと乾燥予防の呼びかけをしてきました。来年度も清潔なハンカチを身につけて使うことを呼びかけ、子ども達が自分で体を守れるよう継続して指導に取り組んでいきます。



#### ⑨ 食育【評価：3.4】

望ましい食生活を知り、実践しようと励む児童の育成を目指して、引き続き健康的な食生活の意識向上に取り組んできました。各学級での食育指導、給食便りの発行などを定期的に行っています。給食週間の集会では、全校児童一人ひとりが書いた感謝の手紙を調理師さんに渡し、給食委員会が発表をしました。また、クイズやゲーム、交流給食など楽しい催しを通して、食べものや食生活に興味を持つ機会になりました。

学校と家庭との連携を深めるために、1年生の保護者向けの給食試食会を開催したり、オープンスクールなどの機会に食育出前授業を取り入れたりしました。その他にも、給食エプロンの補修活動を保護者の方々にお願いしています。

日々の給食においては、給食委員会の児童が献立についての掲示を行うことで関心を高め、各学級では残食を減らすために、食べる時間の確保や、個に応じて食べる量の調節をするなどの工夫を続けています。毎年の残食調査の結果から、残食量は少ない状態で継続できています。今後も子どもたちが栄養のバランスや規則正しい生活の大切さについて知り、実践しようとするので、健康な体づくりに繋がるよう継続的な食育指導に取り組んでいきたいと思ひます。